

「リーダーに必要な知識を学ぼう」

(1) 山を知る

もし、あなたが山行の班長に指名され、今度の山行は班行動にしますと言われたらどうしますか。もちろんその場合には事前に連絡があるはずですが、地図と磁石は必ず用意しましょう。そして、経験を積みばもうあなたはリーダーです。

《班長のあなたは何をするか》

- ① さっそく地図を用意し、計画表を見て歩く行程を確認しましょう。
- ② 地図上でチェックし、登山地図であったら歩行時間と同時にどこに目標物（避難小屋・水場・何とか岩・等）があり、危険箇所はどこか、そしてそこまでの時間を確認しましょう。
- ③ また2万5千分の1地形図なら歩く行程に赤線を入れ、ガイドブックを参考にあらゆる情報を記入し、等高線の混み具合を見て、ここは急坂、周りはブナ林とかまたはハイマツ帯とかも参考に地形図に書き込みましょう。
- ④ 天候悪化の場合のエスケープルートがあるかも知っておかなければなりません。その場合リーダーが判断しますが、そこを下ると何時間で何という場所に下るかも知っておきましょう。

(2) 人を知る

班長さんは班員の状態を把握しておかなければなりませんので、次のことを心がけましょう。

- ① 出発前に班員の健康状態を知る、体操の時など顔を見るとある程度その日の状態が判断できます。少しおかしいなと思ったら本人に聞いてください。
- ② バテてくるとお喋りが少なくなり、歩行も遅くなって離れぎみになります。班長はそのことを素早く気づき歩行速度をゆるめ、声を掛けましょう。列の前へ来てもらうのはいつもの通りです。完全にバテてくると精神的な孤立化に向かい、気持ちが内にもってきて人の言うことに対して反発した気持ちになります。そのことを十分理解してあげる必要があります。一番良い解決法は班長が先にバテた振りをします。おかしいと思われそうですが誰かが先にバテると、私だけが苦しいのではないと云うことが分かり、不思議と元気が出るものです。
- ③ ザレ場の下りなど危険箇所に来たらお喋りを自粛させましょう、その時、班員に命令調に強く言うと反発を買うことがあります、あくまで優しく従わせる方が言うことを聞いてくれます。
- ④ 班は1つのチームです、チームワークが良いと楽しくなります。楽しく持って行くのも班長の裁量です。班長（リーダー）はつらいね。我慢しましょう。

(3) 自然現象を知る

山は晴れているときは穏やかで気持ちの良いものですが、一旦荒れるともものすごい勢いで向かってきます。自然現象の恐ろしさを知っておきましょう。

- ① 出発前日には必ず天気予報を見ましょう。天気予報だけでは明日登る山の詳しい天気はわかりません。登る山の近く（例えば山梨県）天気予報で「晴のち曇り一時雨」なんてわけのわからない天気予報が多いのに気づくでしょう。その場合風向きに注意しましょう、例えば「北の風のち東の風」などとありますが、関東地方でも場所によってかなり違っていることがわかります。登る山の近くはどうか、注意深く見ておきましょう。多くの場合、風向きが変わると天気も変わります、歩いていて風向きが変わったら、または肌に感ずる風の温度が下がったら雨を覚悟し、雨具が直ぐに出せるよう指示しましょう。

②霧（ガス）が濃いときは、その霧が湿っているか乾いているか観察しましょう。

湿っていれば雨になる確率が高く、乾いていれば雨は降らない確率の方が高いと思って良いと思います。

③山の斜面を早い勢いでガスが上昇しだしたら、短時間のうちに雷雨になるかも知れません。もし雷鳴が聞こえてきたら、光と音の差を計ってまだ遠いなどと考えないこと、雷はいつ近くに落雷するかわかりません。

雷が近づいたら姿勢を低くして通り過ぎるのを待つ方が安全です、もし歩き続ける場合はできるだけ姿勢を低くし、人と人の間隔を明けましょう、これは雷の直撃を受けたとき人的被害を最小限にするためです。避難する場合は近くに小屋があれば一番良いのですが、吾妻屋などあつて入る場合は柱から離れた所に居ましょう。避雷針の付いていない吾妻屋に落雷があると柱を高压電流が流れます。大山の見晴台で落雷に遭い死亡した人は、吾妻屋の柱に寄りかかって避難していました。（その後避雷針を設置）大きな木や岩陰に避難するのも危険です、大きな木から離れ、木のてっぺんから45度以内が安全といわれますが、木の枝があった場合そこから放電しますので枝からも離れましょう。

④道が判らなくなったら判る所まで早めに戻りましょう。つい下りだと、どんどん歩いてしまいます。勇気を持って引き返すことです。登山道には人が歩いた跡が必ずあります、岩の角が減っていたり土が付いていたり、道に登山靴のかすかな足跡があったり、ガムや飴の包み紙が落ちて居る場合もあります。けもの道は上部が草や笹で覆われていて、人間が歩く道とは区別できます、良く観察しましょう。

⑤大雨になったら歩く場所・場所で判断が必要です。登山道を歩くと脇からの小さな沢を横切ります、もしそこに石がごろごろしていたら沢から落ちてきた石の塊です。雨の時は落石があると思って下さい、耳を澄ませて落石の音が無いことを確かめ、急いで通過しましょう。また沢の水が土まみれに濁っていたり、枯れ枝や草と一緒に流れてきたら土石流の可能性があり、速くそこから避難しましょう。登山道が沢を渡る所は急激に水量が増すことがあります、水のにごり具合を見ておかしいと思ったら絶対に沢の中へは入るのをやめましょう。その場合、安全な場所まで引き返し様子をみましょう。

⑥風が強くなって歩行が困難になったら引き返すのが原則です。その場合でもかなり慎重に引き返すこと、決して急がないこと。風は息をします、急に強くなったり弱まったり、身体がそのたびに揺り動かされ真っ直ぐに歩けません、馬の背の様なヤセ尾根の通過は絶対に避けましょう。

風速1mに付1℃体感温度が下がると言われています、寒さ対策にも気をくばりましょう。

雨は降っても落石などを注意すれば何とか歩けます、強風は時には人間を吹き飛ばす力を持っています。

風の強さ、地形など広範囲の判断が必要です。TTCでは過去2回ほど強風で引き返した事があります。

⑦台風が近づいていたら、あなたならどうしますか。

台風はまだかなり離れていても暴風圏の端から300km以上離れた場所で大雨の被害が出る場合があります。これは台風により前線が刺激され活発になるからです。

天気予報は正確になってきてはいますが、まだ台風の進路、速さの予測はむつかしいようです。

台風が本土に近づいたら山行を中止するのが賢明です。